

# 研究最前線 学術文化の継承と発展、 人類の「知」に貢献する

グローバル共創科学部  
国際地域共生学コース 助教

ピーターズ マイケル  
Michael K. Peters



教員ウェブサイト



## 成功した人生とは何か？ 日本に来るケニア人ランナー

日本では、多くのケニア人ランナーが高校、大学、実業団で活躍しています。ケニアでは、個人の幸せの追求よりも、周りの人に貢献することを重視する価値規範があり、海外へ出るアスリートにはそれがより強く期待されます。つまり、来日した彼らが目指すのは、日本の駅伝大会で優勝すること(選手としての名声)だけではなく、経済的利益や社会的地位を得て、母国の家族や友人、コミュニティの生活を向上させることなのです。私は、そのようなケニアの価値観を持ちながら日本で活動する彼らの考え方や行動について、性別や所属先による差違も含めて研究しています。



プロバスケの帰化選手についても研究しています。所属学部のフィールドワーク「コラボラティブ・ワークス」ではスポーツのワークを担当しています！

## 日本特有の海辺のイメージ 「洲浜」を探る

「洲浜」という海辺を指す言葉があります。この言葉は、現実の海辺でなく、日本文化の中で共有される理想的な海辺のイメージを表す言葉として使われてきました。昔から日本文化のさまざまな場面で、洲浜のモチーフは見られ、平安時代の和歌の場面や、中世には庭園や絵画で極楽浄土を描く際にも使われました。私の研究の特長は、古い文献や図像をもとに、洲浜について、文学・美術・庭園・宗教など、分野横断的にアプローチしているところです。洲浜は「白砂青松」で示される海辺とも近いのですが、今は「白砂」から発展して、「白」という色そのものの研究を行っています。



三保の松原があり、羽衣伝説が残る静岡は、洲浜の問題を考えるのに良い環境です。この風土にいて、実際に海辺にふれることで、新たに発見するものがあります。

人文社会科学部 言語文化学科 准教授

原 瑠璃彦  
HARA Rurihiko



教員ウェブサイト

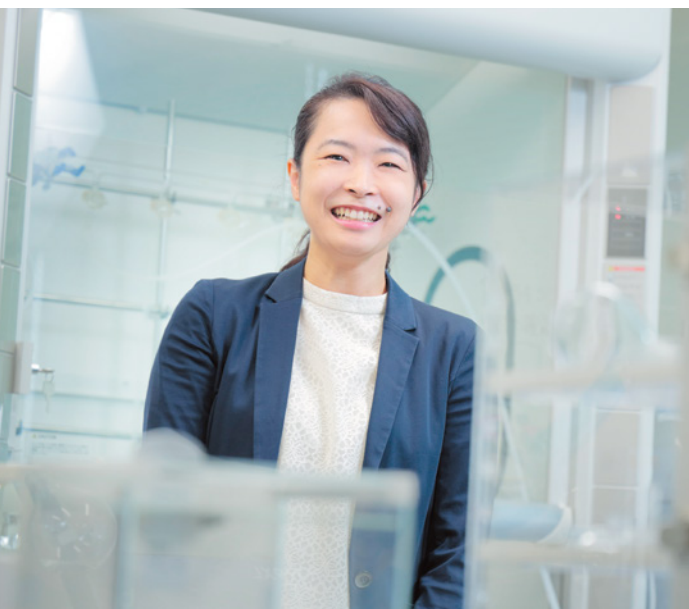


工学部 化学バイオ工学科 准教授

織田 ゆかり  
ODA Yukari



教員ウェブサイト



## 高分子材料の表面・界面を 解明し、設計する

私たちの身の回りで、高分子材料はさまざまな環境下で用いられています。そこには、高分子固体が異種相(空気や液体など)や異種材料(金属、異種高分子など)と接する「表面・界面」が存在します。濡れ性、潤滑性、防汚性、接着特性など、さまざまな表面・界面特性を制御するには、高分子の表面や界面の状態を正しく理解し、適切な分子設計を行うことが重要になります。例えば、九州大学との共同研究では、接着界面の形成機構を可視化しました。現在は、運動性の高い高分子が膜の表面に集まりやすい特性を利用して、高分子膜の濡れ性を自在に制御する新しい手法の開発を進めています。

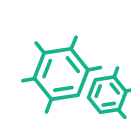


プラスチックやゴムなどの高分子材料は、私たちの生活を豊かにしてくれます。未来のために、より省エネルギーで省資源な機能性高分子材料のもののづくりを研究しています。



## 研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します  
2024年3月～2024年7月



|                                                             |
|-------------------------------------------------------------|
| 長尾 遼(農学部)「Acaryochlorisの光化学系I複合体の特性解析」他1件発表                 |
| 橋本将典(農学部)「藤枝フィールドで有機堆肥の機能性評価による新たな知見の創出を目指す研究を開始」           |
| 一家崇志(農学部)「プラズマクラスター技術が寄与する植物の生育促進メカニズムを確認」                  |
| ルグラン ジュリアン(理学部)「岩手県から日本最古の植物化石を発見」                          |
| 塩田真吾(教育学部)「学校でのケガの当事者意識を促す安全教育プログラムの開発」他2件発表                |
| 野口良史(工学部)「ホタルの発光メカニズムを探れ！ルシフェリン分子の構造変化を解明」                  |
| 兼崎 友(静岡共同利用機器センター)「3-クロロ安息香酸分解細菌の全ゲノム配列解読ー公開講座参加高校生との共同研究ー」 |
| 今泉文寿(農学部)「森林の成熟は土砂災害を大きく減少させる」                              |
| 江草智弘(農学部)「活発な林業活動は、森林による炭素隔離量を増加させる」                        |
| 宮崎 真(情報学部)「タイミング学習における身体部位特異性」                              |
| 日下部 誠(理学部)「胃を持たない魚類が収斂(しゅうれん)的に失った遺伝子を特定」                   |
| 間瀬暢之(グリーン科学技術研究所)「フェアリー化合物の短段階合成手法の開発」                      |
| 北村晃寿(防災総合センター)「静岡県熱海市伊豆山港沖に流出した盛土の底質と有孔虫群集への影響調査」           |
| 徳元俊伸(創造科学技術大学院)「ゲノム編集により高度透明化金魚の作出に成功しました」                  |
| 川本竜彦(理学部)「海洋マントルにおける小スケール対流の証拠検出」                           |
| 峰野博史(情報学部)「生成データ拡張手法でメロン等級判定AIの精度向上を実現」                     |